

# 次世代へつなぐ 再生・創生への課題

～瀬戸内海・東京湾・有明海の現場から～

## 開催趣旨

諫早湾(長崎県)が干拓事業で閉め切られて、日本有数の諫早湾干潟が消滅して20年が過ぎました。その後、大規模なノリの色落ちが発生して、「有明海異変」と言われ、多くの議論が巻き起こり、他の海域に比べ膨大な予算が投入され、さまざまな事業・研究がなされました。しかし、問題解決にはほど遠い状況です。地域は、なぜ生かすことができずにいるのか。行政の対応は、なぜ不十分なのか。科学は、対立を解消し望ましい方向へ導く手段としてなぜ役割を果たせないのか。

同様の閉鎖性海域として環境問題・水産問題に直面してきた瀬戸内海、東京湾の取り組みと比較することにより、また、昨今の国の内外の環境や水産の施策を展望する中で、有明海に対して新たな展開を見出し、次世代に再生・創生を託すには、いま、なにが必要かを議論します。



有明海



瀬戸内海



東京湾

入場  
無料

CPDS 認定  
講座申請中

但し、講座認定が取れない  
場合もございます。

## プログラム

1. 開会のあいさつ  
特定非営利活動法人有明海再生機構理事長 楠田哲也
2. 基調報告 ～瀬戸内海・東京湾・有明海からの報告～  
○公益社団法人瀬戸内海環境保全協会顧問 小林悦夫  
○東京湾再生官民連携フォーラム事務局 細川恭史  
○特定非営利活動法人有明海再生機構副理事長 川上義幸
3. 有明海再生に向けた技術提案ワークショップ技術提案 表彰式
4. パネルディスカッション  
次世代へつなぐ 再生・創生への課題  
～瀬戸内海・東京湾・有明海の現場から～  
コーディネータ 株式会社朝日新聞社  
朝日新聞福岡本部報道センター 今村建二  
パネラー 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会顧問 小林悦夫  
広島大学名誉教授・公益財団法人エメックスセンター 副理事長 松田 治  
東京湾再生官民連携フォーラム事務局 細川恭史  
佐賀県有明海再生・自然環境課課長 中島則久  
九州大学名誉教授・特定非営利活動法人有明海再生機構理事長 楠田哲也
5. 閉会のあいさつ  
特定非営利活動法人有明海再生機構副理事長 川上義幸

## 日時

平成 29 年

12月16日 土

13時30分～16時30分

## 場所

佐賀市保健福祉会館

(愛称: ほほえみ館)

佐賀市兵庫北三丁目8番36号

